

CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE-広島 (2010年ver.1)

(仮称)ボレスター五日市駅前
※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配慮項目	評価点	重み係数	内訳							
■1.「地球温暖化対策」の推進										
1.1 建物の熱負荷抑制										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 品確法の等級4の省エネ基準、窓部は複層ガラスとカーテンを標準設置。	3.0	0.10	Q1 室内環境	2 温熱環境	2.1 室温制御	3 外皮性能				
	3.0	0.42	LR1 エネルギー	1 建物の熱負荷抑制						
	5.0	0.48								
小計		4.0	0.37							
1.2 自然エネルギーの利用										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.50	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用	2.1 自然エネルギーの直接利用					
	3.0	0.50	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用	2.2 自然エネルギーの変換利用					
小計		3.0	0.09							
1.3 設備システムの高効率化										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 燃焼系潜熱回収瞬間式給湯器の採用	5.0	1.00	LR1 エネルギー	3 設備システムの高効率化						
小計		5.0	0.18							
1.4 設備システムの効率的運用										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.00	LR1 エネルギー	4 効率的運用	4.1 モニタリング					
	3.0	0.00	LR1 エネルギー	4 効率的運用	4.2 運用管理体制					
小計		0.0	0.00							
1.5 資源・マテリアル対策										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 節水型便器や節湯水栓の採用。造作材に集成材を使用。	4.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.1 節水					
	3.0	0.12	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	1 雨水利用システム導入の有無				
	3.0	0.00	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	2 雜排水再利システム導入の有無				
	2.0	0.06	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.1 材料使用量の削減					
	3.0	0.19	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.2 既存建築躯体等の継続使用					
	3.0	0.16	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.3 部材材料におけるリサイクル材の使用					
	3.0	0.16	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用					
	2.0	0.04	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.5 持続可能な森林から産出された木材					
	3.0	0.19	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					
小計		3.0	0.26							
1.6 ライフサイクルCO2排出率										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物に対して75%以下	5.0	1.00	LR3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮						
小計		5.0	0.11							
1.「地球温暖化対策」の推進の評価										
3.9		0.72								
■2.「ヒートアイランド対策」の推進										
2.1 溫熱環境の向上										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	1.0	0.49	Q3 室外環境(敷地内)	1 生物環境の保全と創出						
	2.0	0.24	Q3 室外環境(敷地内)	3 地域性・アメニティへの配慮	3.2 敷地内温熱環境の向上					
	2.0	0.27	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.2 温熱環境悪化の改善					
小計		1.5	0.96							
2.2 交通負荷抑制										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 入居者が利用できる電動自転車を1台設置。	4.0	1.00	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.3 地域インフラへの負荷抑制	3 交通負荷抑制				
小計		4.0	0.04							
2.1.6 「ヒートアイランド対策」の推進の評価		1.6	0.15							
■3.「長寿命化対策」の推進										
3.1 耐用性の向上										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 コンクリートの水セメント比を50%に抑え、品確法の劣化対策等級3の性能を確保。	3.0	0.47	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 部品・部材の耐用年数	1 耐震性				
	3.0	0.12	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 部品・部材の耐用年数	2 免進・制振性能				
	5.0	0.09	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	1 駆体材料の耐用年数				
	5.0	0.09	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				
	2.0	0.04	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	3 主要内装仕上げの更新必要間隔				
	3.0	0.03	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	4 空調換気ダクトの更新必要間隔				
	5.0	0.06	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	5 空調・給排水配管の更新必要間隔				
	3.0	0.09	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	6 主要設備機器の更新必要間隔				
小計		3.5	0.47							
3.2 設備の更新性										
(コメント) ※設計の計画上特段に配慮した事項を記載してください。 節水型機器の使用。中央式空調設備は設置しておりません。	3.0	0.17	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性				
	3.0	0.17	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	2 給水配管の更新性				
	3.0	0.11	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	3 電気配線の更新性				
	3.0	0.11	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	4 通信配線の更新性				
	3.0	0.22	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	5 設備機器の更新性				
	3.0	0.22	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	6 バックアップスペース				
小計		3.0	0.53							
3.「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)		3.2	0.13							
■重点項目の総平均(上記3項目)										
3.5										